



National Center
for Art Research

NCAR 国際シンポジウム・ワークショップ 2023
「美術館とリサーチ | アートを“深める”とは？」
参加者募集要項

国立アートリサーチセンター（NCAR）では、国際シンポジウム・ワークショップ 2023「美術館とリサーチ | アートを“深める”とは？」を 2024 年 3 月 21 日（木）～23 日（土）に国立新美術館にて開催します。本プログラムは、世界のアートを取り巻く共通課題をテーマに、国内外の美術専門家を招へいし、対話や議論を通じた交流の深化と将来的な協働の機会を目的としています。NCAR では本プログラムの参加者を下記の要領で募集します。

1. 本プログラムの背景

国立アートリサーチセンターは、日本における新たなアート振興の拠点として「アートをつなげる、深める、広げる」をミッションに掲げています。専門家の国際的なネットワークを構築し、日本のアートを世界と繋げることはその主要な活動のひとつです。センター発足にともない、2018 年から 2022 年まで実施された「文化庁現代アートワークショップ」を承継し、今年度より「NCAR 国際シンポジウム・ワークショップ」として開催します。

2. 本プログラムの内容

センターの活動は専門領域の調査研究（リサーチ）に留まらず、日本の美術館活動全体の充実に寄与することを目指していますが、「アートを深める」ためのリサーチは美術館にとって不可欠な活動です。世界各地の美術館ではライブラリーやアーカイブを一般公開、あるいはリサーチセンターを併設している館もあります。また大学機関に所属するリサーチセンター、アートアーカイブセンターなどの事例もあります。「NCAR 国際ワークショップ・シンポジウム 2023」では、美術館活動におけるリサーチに注目し、多様な事例を共有しながら、持続的にアートを“深める”可能性について考えます。

プログラム前半の「ワークショップ」では、今回のテーマを掘り下げ、国内外のアートリサーチの実践と課題、今後の可能性について、アーカイブ、アーティスト、キュラトリアル、リサーチの観点から議論を行います。国内外のキュレーターや研究者、アーティストによるプレゼンテーションの後、参加者全員のディスカッションを行います。

ワークショップ後に開催される「シンポジウム」では、国内外の美術館や研究機関等に属するアートリサーチセンターのユニークな活動事例を紹介しつつ、リサーチの在り方や課題、社会における活用の方法や展望について議論します。シンポジウムは一般公開されます。

プログラムを締めくくる「視察プログラム」では、本プログラム期間中に開催されている横浜トリエンナーレを視察します。視察中も、各国・各地域から参加するワークショップ参加者やトリエンナーレ主催者などとの交流やディスカッションを通し、今後の継続的なネットワーク構築を作る機会とします。



**National Center
for Art Research**

- プログラム： NCAR 国際シンポジウム・ワークショップ 2023
「美術館とリサーチ | アートを“深める”とは？」
- 日程： 2024 年 3 月 21 日 (木) ~ 3 月 23 日 (土)
- 会場： 国立新美術館 (東京都港区六本木 7-22-2) 3 階講堂
- 主催： 国立アトリサーチセンター (NCAR)
- ワークショップ 参加者： 国内外のキュレーター、研究者 など約 40 名 (公募制、一部招待制) * 非公開
- シンポジウム： 定員約 150 名 (事前申込制) * 一般公開
- 開催言語： ワークショップ： 日本語・英語 (日英同時通訳)
シンポジウム： 日本語・英語 (日英同時通訳、日本手話通訳、日本語文字支援 (UD トーク))
- ライブ配信： なし (後日、アーカイブ動画を公開予定)
- * スケジュール詳細は、別紙 1 をご参照ください。

3. 募集対象

国内のキュレーターまたは研究者 (十数名程度)

4. 応募資格

- 1) 国内のキュレーターまたは研究者 (特に美術におけるリサーチ、アーカイブに興味のある方)
- 2) 本プログラムの目的を十分に理解し、別紙 1 「プログラ概要」記載全てのプログラムに参加できること。
- 3) 英語でプログラム参加者・登壇者との相互理解や交流に努められること。
- 4) 自身の研究や活動紹介等を通じ、本プログラム内で予定されているディスカッションに積極的に参加できること。
- 5) 本プログラムの成果を今後の自身の活動・研究に継続的に活かす意志や計画があること。
- 6) 本プログラムのフォローアップのため、NCAR が将来的に主催する研究会やシンポジウム等への参加や広報活動に積極的に協力いただけること。
* 本プログラムは、ビデオ録画およびスチル撮影を行い、プログラム終了後に、NCAR の情報発信やプロモーション、アーカイブ等の目的のため、NCAR ウェブサイト (<https://ncar.artmuseums.go.jp/>) に公開する予定です。
- 7) 本プログラム開催期間を通して商業活動や他の営利活動をしないこと。
- 8) プログラム参加後にレポート (活動・研究記録、形式自由) を提出できること。また、開催後に事務局からお送りするアンケート (自由記述方式) へのご協力もお願いいたします。

5. 本プログラムでご用意するもの

ご参加いただける方には、以下が支給されます。ただし、本務先の規定により、全部または一部を受給できない場合は、事務局までご連絡ください。

- 1) 交通費：独立行政法人国立美術館の旅費規定に従い、居住地からの定額往復交通費が支給されます。
 - 飛行機の利用：鉄道で 4 時間以上かかる場合は飛行機の利用が可能です。飛行機をご利用の場合は、事務局に搭乗半券のご提出をお願いいたします。また、**マイレージの積算は禁止**されておりますのでご注意ください。
- 2) 宿泊費：会場から片道 50km 圏外にお住まいの場合、独立行政法人国立美術館の旅費規程に従い、会場近くのホテル (シングル、チェックイン 3/21 / チェックアウト 3/23) を事務局で手配します。居住地から会場までの移動時間によっては前・後泊分が支給可能ですので、別途事務局までご相談ください。ランドリーサービスやミニバーなど、宿泊基本料金に含まれてい



**National Center
for Art Research**

ない費用は、宿泊者ご自身でご負担ください。

－ 会場から片道 50km 圏内にお住まいの場合は、支給対象外となります。

3) 日当：会場から片道 50km 圏外にお住まいの場合、独立行政法人国立美術館の旅費規程に従い、日当をお支払いします。

－ 会場から片道 50km 圏内にお住まいの場合は、支給対象外となります。

4) 食事：3月 21 日、22 日の昼食・夕食（懇談会）をご用意します。（変更の可能性があります。）

5) 交通費・日当のお支払いは、対象となる方につきましては、プログラム当日に株式会社 JTB より現金にていたします。個人への支給の場合は源泉徴収後の金額のお渡しとなります。

6. 選考スケジュール

応募書類受付：令和 5（2023）年 12 月 1 日（金）～12 月 18 日（月）正午まで

書類審査：令和 5（2023 年）12 月中旬頃を予定

選考結果発表：令和 5（2023 年）12 月後半～令和 6（2024）年 1 月上旬頃を予定

* 選考結果は個別にメールにてご連絡します。選考の経緯や結果に関する個別のお問合せへの返答はできかねますのであらかじめご了承ください。

7. 応募方法

下記フォームに必要事項を日本語もしくは英語でご入力ください。

<https://forms.office.com/r/d2BDQqu8vB>

* 回答後の情報修正は、メールで事務局までご連絡ください

(workshop2023@bunka-artplatform.jp)



8. お問合せ

本プログラムに関するお問合せについては、令和 5（2023）年 12 月 18 日（月）正午までに下記までご連絡ください。

国際シンポジウム・ワークショップ 2023 事務局（株式会社 AMCN 内）

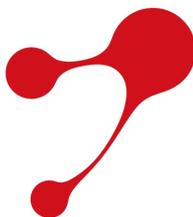
担当：土井、五十嵐、望月、手銭、大久保、小池

連絡先：workshop2023@bunka-artplatform.jp

9. 個人情報の取り扱い

ご提供いただいた個人情報は、本プログラムの運営並びに本事業及びこれに関連する事業の推進に関する目的においてのみ利用し、他の目的での利用および本事業の関係者以外の第三者への提供はいたしません。

以上



National Center
for Art Research

(別紙 1) *2023年12月14日更新

スケジュール (予定)

<敬称略。時間および内容は変更される可能性があります>

3月21日(木): ワークショップ

9:30-10:00	参加者受付
10:00-10:30 ワークショップ	イントロダクション、参加者自己紹介
10:30-13:00 ワークショップ	セッション1: アーカイブ・セッション (仮題) 海外、国内の作品・資料アーカイブの実践例を紹介し、それぞれの取り組みの比較や課題を提起する。また、作品や資料の保存だけでなく、公開・活用に向けた将来の展望や、アーティスト個人の作品や資料の受け入れの在り方についても議論する。 ◎パネリスト： - 原舞子 (三重県立美術館 学芸員) - Daniel Muzyczuk (ウッチ美術館 近代美術部門長) - 江上ゆか (兵庫県立美術館 学芸員) ◎モデレーター：光田由里 (多摩美術大学アートアーカイブセンター所長)
13:00-14:00	昼食
14:00-16:30 ワークショップ	セッション2: アーティスト・セッション (仮題) 国境を超えてリサーチを展開し、リサーチの過程で得た資源をもとに作品制作を行うアーティストの実践例を紹介する。具体的には、アーティストがどのような視点や方法でリサーチ、フィールドワークを行い、その過程で得た情報や土地・人々との関係性をもとに、どのように作品化・プロジェクト化を行うのかを紹介する。その上で、リサーチにおける課題や作品制作におけるリサーチ資源の活用方法、展望について議論する。 ◎パネリスト： - キュンチョメ (アーティスト) - 高山明 (シアター・ディレクター / アーティスト) - 藤井光 (アーティスト) - チョ・ジウン (アーティスト) ◎モデレーター：大館奈津子 (一色事務所/芸術公社理事)
16:30-17:00	休憩



National Center
for Art Research

17:00-19:30
ワークショップ

セッション3：キュラトリアル・セッション（仮題）
国際的な展覧会（ビエンナーレ等）に出展するために必要なリサーチについて、キュレーターの視点（現地視察、コンセプト設定、アーティストリサーチ、展覧会構成、解説・執筆等）からプレゼンテーションし、リサーチを深める上で重要な点や課題について議論する。

◎パネリスト

- Su Wei（キュレーター/アトライター）
- Abhijan Toto（キュレーター/アーティスト/アトライター）
- Marie H el ene Pereira（キュレーター/ディレクター RAW Material Company）

◎モデレーター：ヘイリー・エアーズ（e-flux/上海ビエンナーレ 2023 キュレーター）

19:45- **懇談会**

3月22日（金）：ワークショップ&シンポジウム

10:00-12:30
ワークショップ

セッション4：リサーチの活用（仮題）
大学などの研究機関、美術館、アーティスト、キュレーターなど様々な立場からアートリサーチの在り方を多角的に捉えた上で、どのようなリサーチ資源の活用の方法があるかを議論する。また、アートの専門家だけでなく、多くの人々がリサーチ資源に関心をもってアクセスし、活用できるようにするにはどのようなアプローチが必要かを議論する。

◎パネリスト：

- ジャスティン・ジェスティ（ワシントン大学（シアトル）准教授）
- 菊池裕子（ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館 学術プログラム部門部長）
- 馬定延（関西大学 准教授 / 国立国際美術館 客員研究員）
- 竹内公太（アーティスト）

◎モデレーター：山本浩貴（金沢美術工芸大学）

12:30-13:15 昼食

13:15-16:15
ワークショップ

ラップアップセッション
ワークショップで展開された議論をもとに、参加者とともラップアップを行う。

◎モデレーター：片岡真実（NCAR センター長/森美術館館長）

16:15-17:30 視察：国立新美術館



**National Center
for Art Research**

17:30-20:00
シンポジウム

NCAR 国際シンポジウム 2023：美術館とリサーチ | アートを“深める”とは？
世界のアートリサーチセンターの活動事例を紹介し、各機関の特徴やユニークな取り組みを紹介。各機関が抱える課題を出し合い、各機関の財源や人材獲得の方法についても触れながら、持続的な運営に向けた展望を議論する。さらに、サーチ資源をいかに公開し、どのように広く国際的に活用していくかを議論する。

◎パネリスト：

- マリ・カルメン・ラミレス（ヒューストン美術館 キュレーター）
- イ・デヒョン（Hゾーン設立者/ディレクター）
- オズゲ・エルソイ（アジア・アート・アーカイブ シニア・キュレーター）
- メアリー・E・ミラー（ゲッティ・リサーチ・インスティテュート ディレクター）
- 川口雅子（国立アートリサーチセンター 情報資源グループリーダー）

◎モデレーター：片岡真実（国立アートリサーチセンター センター長／森美術館 館長）

20:15- 懇談会

3月23日（土）：横浜トリエンナーレ視察

9:15-10:00 六本木出発。バスにて移動

10:00-18:00 横浜トリエンナーレ視察

18:00- 懇談会（調整中、任意参加）

夜 終了後、解散

以上